

# コシヒカリの1回目穂肥前には、 生育診断をしましょう!

令和3年7月8日  
長岡農業普及指導センター  
稲作情報 No.5

電話 0258-38-2554  
E-mail ngt111440@pref.niigata.lg.jp

## 栽培管理のポイント

- コシヒカリの1回目穂肥は、生育診断をして穂肥の時期と量を決める。
- 2回目穂肥は、確実に施用する。
- 基肥一発肥料栽培で葉色が急速にさめ、出穂期の葉色（SPAD値）が33を下回ると予想される場合は、追加穂肥を施用する。
- 農道・畦畔の雑草管理を徹底する。（斑点米カメムシ類対策）

### 1 出穂期予想と穂肥時期・量のめやす（7月5日現在）

- (1) 出穂期は、昨年より1日早く、平年並みの予想です。
- (2) 移植時期やほ場によって生育に差があるので、ほ場ごとに幼穂長を必ず確認してください。

表1 出穂期予想と穂肥時期のめやす（長岡・平場地域）※

品種名	想定する移植期 (稚苗の場合)※	幼穂 形成期	出穂期	穂肥時期のめやす( )は出穂前日数	
				1回目	2回目
コシヒカリ	(5/10~15)	7月12日	8月4日	7/17~20 (18~15)	7/25 (10)
コシヒカリ	(5/20)	7月15日	8月7日	7/20~23	7/28
こがねもち	(5/5~10)	7月7日	7月30日	7/12~15 (18~15)	7/20 (10)
越淡麗	(5/10~15)	7月15日	8月7日	7/20 (18)	7/28 (10)
あきだわら	(5/10~15)	7月21日	8月13日	7/19~21 (25~23)	7/30 (14)

表2 穂肥量のめやす（N成分合計量）

品種名	施用量 kg/10a	品種名	施用量 kg/10a
コシヒカリ	1~2.5	越淡麗	2
こがねもち	1~3	新之助	2~3
		あきだわら	5~7※

※1回目 3~4kg、2回目 2~3kg

多収性品種「あきだわら」の1回目穂肥は遅れないようにする。

### 2 コシヒカリの1回目穂肥 ~ 生育診断をして時期と量を決める

- (1) 生育に応じて、適切に穂肥を施用する（診断方法は、3ページ【参考】を参照）
- (2) 草丈が長く、葉色が濃い場合 → 倒伏の恐れ
- (3) 茎数が多く、葉色が濃い場合 → 籾数過剰の恐れ

施用時期を遅らせたり、  
施用量を控えめにする。

### 3 コシヒカリの2回目穂肥 ～ 確実に施用

- (1) 1回目穂肥を施用できなかった場合においても、2回目穂肥は稈長の伸長に影響しないため確実に施用しましょう。
- (2) 1回目穂肥が出穂期18日前より遅れた場合は、1回目穂肥を施用した日の7日後をめやすに2回目を施用しましょう。

### 4 出穂期間近で高温が予想された場合 ～ 3回目穂肥を施用する

表3 【分施肥体系】高温が予想される場合の3回目穂肥のめやす(標準的な地力のほ場)※

栽培体系	判断時期・葉色のめやす	施肥時期・施肥量	用いる肥料
一般栽培 (化学肥料栽培)	出穂期3日前の葉色 SPAD値31以下のとき	出穂期3日前 窒素成分1kg/10a以下	化成肥料
特別栽培 (減化学肥料栽培)	出穂期6日前の葉色 SPAD値33以下のとき	出穂期6～3日前 窒素成分1kg/10a	有機100%肥料

※ 低地力ほ場については、農業普及指導センターやJAに相談する。

### 5 基肥一発肥料を使用して葉色の低下が進んでいる場合

表4 【基肥一発体系】高温が予想される場合の3回目穂肥のめやす

栽培体系	判断時期・葉色のめやす	施肥時期・施肥量	用いる肥料
一般栽培 (化学肥料栽培)	出穂期までの葉色 SPAD値32～33を下回ると 予想されるとき	出穂期10日前まで 窒素成分1kg/10a	化成肥料
特別栽培 (減化学肥料栽培)	出穂期10日前頃の葉色 SPAD値30以下のとき	出穂期10～5日前頃に 窒素成分2kg/10a	有機100%肥料

### 6 病害虫対策

#### (1) 斑点米カメムシ類

農道・畦畔の除草は、特に斑点米カメムシ類が好むイネ科雑草が出穂・結実しないよう管理を徹底しましょう。併せて、水田内雑草(ヒエ、ホタルイ等)を早めに除去しましょう。

#### (2) いもち病

いもち病に感染しやすい天候が続いており、長岡管内でも葉いもちの発生が確認されました。早期発見に努め、発病を確認したら、直ちに防除を実施しましょう(コシヒカリBLは除く)。

#### (3) 紋枯病

窒素の過剰施用を避け、過繁茂にならないように施肥管理を適切に行いましょう。前年多発生したほ場や茎数が過剰なほ場では多発生しやすいため、発生状況を確認して防除を実施しましょう。

- 農作業事故に注意しましょう。特に草刈り作業は周囲に気を配ってください。
- 農作業時の熱中症に注意をしましょう。こまめな休憩と水分補給が大切です。

## 【参考】コシヒカリの1回目穂肥診断方法

(1) 幼穂長を測定する。 → 幼穂形成期・出穂期を予測する。

- ① ほ場内の平均的な生育の株を3株選ぶ。
- ② 株の中で長い方から2～3本の茎を株元から引き抜き、幼穂長を測る。

合計6～9茎の幼穂長で出穂前日数を予測する。(表5)

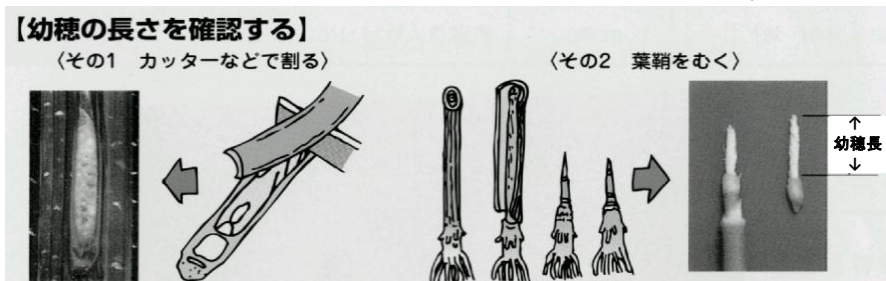


図1 幼穂長の確認方法

表5  
幼穂長と出穂前日数の関係(コシヒカリ)

出穂前日数	幼穂長
23日	0.1 cm
20日	0.2
18日	0.5～1.0
12日	4.0～6.0

(2) 幼穂長0.1cmの頃(幼穂形成期)に草丈・茎数・葉色を測定(10株平均)

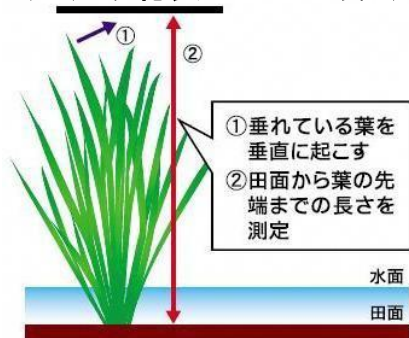


図2 草丈の測り方

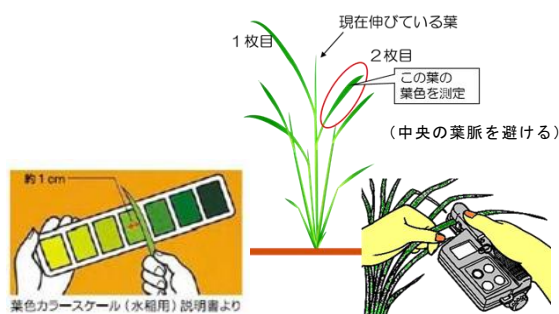


図3 葉色の測り方

(3) 穂肥診断(図4、表5)～草丈と葉色から診断～

【草丈が長く・葉色が濃い場合】→倒伏防止のため、1回目穂肥は遅め控えめとする。

- ① 「幼穂形成期の生育量」= 「草丈」× 「葉色」を計算する。

(SPADや葉色板がない場合は、各地に設置されている生育調査・葉色診断ほ場の看板を参考に葉色値を推定する。)

- ② 草丈と葉色を図4にあてはめ、生育量がどの位置か(A～C)を確認する。

有機50%肥料体系では実線 — が境界、化学肥料体系では点線 ..... が境界。

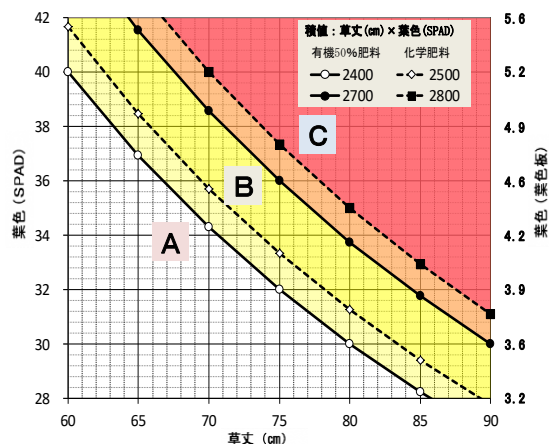


図4 幼穂形成期の生育量(草丈×葉色の値) 早見グラフ(図中の曲線は積値〔草丈(cm)×葉色(SPAD)]を表す)

③ 幼穂伸長期間の気象予報を確認し、表5で穂肥の施用時期と施用量を決める。

(幼穂伸長期間：幼穂形成期～出穂期の期間、おおむね7月中旬～8月上旬)

表6 コシヒカリ1回目穂肥施用のめやす

幼穂形成期の生育量 [草丈cm × SPAD値]	生育量早見 グラフ内の 位置	幼穂伸長期間の気象予報別の穂肥対応		
		低温・少照・多雨	平年並	高温・多照・少雨
有 2400未満 化 2500未満	A	○~△ 時期遅め、 量を控えめ	◎ 出穂18日前 に基準量	◎ 出穂18日前に 基準量
有 2400~2700 化 2500~2800	B	× 施用しない	× 施用しない	○ 出穂15日前に 基準量
有 2700以上 化 2800以上	C	× 施用しない	× 施用しない	×~△施用しない 異常高温の場合は 15日前に基準量

※ 有：有機50%肥料使用、化：化学肥料使用

令和2年は、この時期に低温・少照・多雨となり倒伏が多くなりました。

#### (4) 穂肥診断 ～茎数と葉色から診断～

【茎数が多く・葉色が濃い場合】

→過剰籾数による品質低下を防ぐため、1回目穂肥は遅め控えめとする。

##### ○7月10日の生育のめやす

- ・ 茎数：440~460本/m<sup>2</sup>  
(50株植えて29本/株)
- ・ 葉色 (SPAD値)：36

籾数 28,000粒/m<sup>2</sup>を超えると  
乳心白粒が増加！

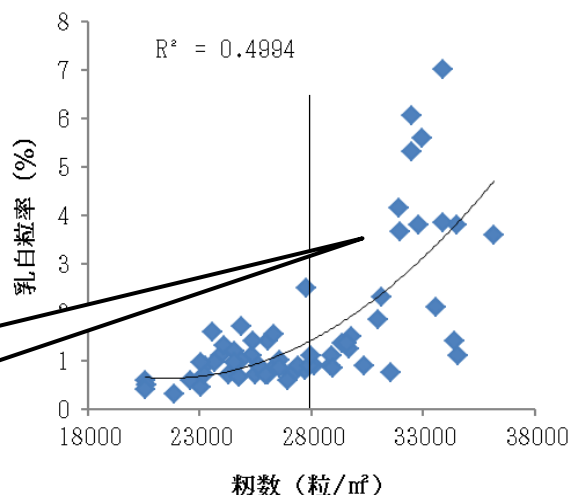


図5 m<sup>2</sup>当たり籾数と乳白粒率の関係